

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0370101875		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	〒020-0051 岩手県盛岡市下太田楯14-2 (電話) 019-656-3630,3631		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成19年12月12日

【情報提供票より】(平成19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 10.2	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費	円
敷金	有(50,000 円)	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)	有りの場合 償却の有無	有/無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円	
	夕食	300 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり			円	

(4) 利用者の概要(10月5日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田内科医院、菊池歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、協栄テックス株式会社の運営する事業所の1つで、JR盛岡駅から車で10分程度、バスでは下川原バス停下車、徒歩で10分ほどのところにある。隣接した民家は無いが、老人福祉センター、児童センター、保育園と隣り合わせ、道路を挟んで広大な水田が一望でき、子どもたちの声が響き渡るなど、比較的閑静な場所に位置している。利用者は新しく、広々としたホームの居住空間の中、職員に見守られながら、静かに生活、職員は、利用者一人ひとりの思いや希望を、より、しっかりと把握するべく、試行錯誤を重ねながら、ケアの実践に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、介護計画の見直しや、災害対策などに改善課題が見られたが、概ね3か月ごとに介護計画の見直しが行われ、また火災の避難訓練を実施するなど適正に改善が行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に当たっている。自己評価のプロセスを通して、「ケアのあり方」について改めて職員の気づきが得られている。今後は、外部評価結果をもとにした勉強会などの機会を設けたいとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、内容は、ホームの行事予定、入所者の状況の報告、避難訓練等の協議、意見交換などとなっている。委員からは、家族の集まりの場の必要性について意見が出されるなど活発な会議となっている。前回の外部評価の結果についても、報告がなされ意見交換がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等からの意見などを頂くため意見箱を設置しているが、これまで意見等は無い。現在、家族会は設けられていないが、運営推進会議において、家族の集まりの場の必要性が話題になっていることから、今後、設置検討が期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会には、最近、加入(会費納入)した。回覧板を回すほか、ホームの納涼祭等に地域の方々の参加をいただいたり、隣接する老人福祉センター等との合同避難訓練を始めて実施するなど、地域との関係が深められつつあるが、地域活動や近隣住民との日常的な関わりや交流には至っていない。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に職員が話し合い、地域とのふれあいを意識した「私たちは、いつもあなたのそばにいて心的心声を聞いています。地域の人々や自然とふれあい自分らしく生き生きと笑顔で過ごせるよう自由で喜びのあるホームを目指します」を理念としている。	○	理念の中に「地域の人々や自然とふれあい」を明記しているが、現実には地域との交流等は少ないため、今後の課題としているが期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	意識づけを図るためホーム内に理念を掲示し、また職員にも独自のマニュアルファイルを配布はしているが、理念の具現化を図るための職員間の話し合いの機会は持たれていない。今後、職員との話し合いや、勉強会の機会を設けたいとしている。	○	月々のミーティングなど場を活用し、理念と実践との関係づけを話し合うことも大切と考える。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に、最近、加入した。地域住民の一人として回覧板を回すほか、ホームの納涼祭等に参加を頂いたり、7月には、初めて隣接施設である老人福祉センターとの合同の避難訓練を実施するなど、関係が深められつつあるが、地域活動や近隣住民との日常的な係わり、交流にはまだ至っていない。	○	地域・住民との日常的な関係が深まることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で、自己評価を行ったが、「満足すべき評価」の難しさを「感じた」というが、自己評価のプロセスを通して、普段何気なくやっているケアの意味、やらなければならないケア等について、職員の気づきにつながったとしている。外部評価結果をもとにした職員の勉強の場を設けたいとしている。		今回の自己評価及び外部評価の実施のプロセスを通じて気づきの姿勢が見られ、今後を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月1回奇数月の第3火曜日に開催している。ホームの行事予定、入所者の状況の報告や避難訓練等協議、意見交換などである。委員からは、家族の集まりの機会の必要性などに、活発な意見が出されている。昨年の外部評価の結果についても報告され、意見交換がなされている。	○	消防や警察など委員以外にも出席していただき、地域支援、災害防止等についての話し合いなども期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や諸届け等を提出する機会を利用して連絡を取り合うなど、いつでも相談のできる関係づくりに努めている。なお地域包括支援センターの担当者が訪れるときもあり、それらを通じて連携を図るようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報誌「田園だより」で年3回ほど利用者の活動状況等をお知らせするほか、面会時や状態変化時のときなど随時、連絡を取り合っている。金銭管理(1名のみ)については毎月、収支記録簿をコピーし報告している。	○	家族は、利用者の日常生活における暮らしぶりや健康状態などについて定期的な情報提供又は報告を期待しているものと考えられることから一考に期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、設けられていないが、運営推進会議で、家族の集まりの場の必要性が話題になっていることから、今後、設置について検討されることが期待される。	○	家族の意見反映については各種行事の機会を捉えて対応することも可能と考えられる。また家族アンケート調査については、評価機関が外部評価のために行う調査結果の活用のほか、ホーム独自にテーマを設定して行うことが望ましいと考える。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は必要最小限に努力しているが、特に離職等の際は出来るだけ利用者の心に混乱をきたさないよう「さりげない別れ」に配慮している。異動は隣接のデイサービスであるがグループホームと行き来する馴染みの中でダメージを少なくしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階ごとに定めた研修計画は特に定めていないが、資格取得等スキルアップ研修に対しては、休暇や勤務シフトの変更を認めるなど、柔軟に対応し支援している。	○	サービスの質の向上を図るためには職員の資質向上・レベルアップが欠かせないことから、様々な資格取得はもちろん、日常のケア実践に必要な研修への積極的な派遣を引き続き期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会(岩手県、ブロック)の定例会に参加するなど、情報交換、交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用者については、本人・家族が見に来たりホームの雰囲気馴染んでからの利用を基本としているが、現実には、一人暮らしや家族の対応困難による緊急的な入居事例、或いは病院等の施設から入居事例は、直ちに入居のケースが多いとしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意(オルガンを弾く、歌、習字、踊り、草取りなど)なことをホームのレクリエーションに取り入れたり、また利用者の昔の話を聞いて利用者をより理解するきっかけとするなど、利用者との強い関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入したが中止した。現在は独自の書式により作成している。利用者の思いや希望の把握に努めているが、本人の真意や希望を見出せずにいることも多いとしている。特に遠方の家族との連携が十分図られていないとしており、今後も試行錯誤を重ねながら把握に努めたいとしている。	○	利用者の思いや希望などの把握に努力しているが、目が離せない利用者や、転倒防止の対応のため常に緊張し行動が「利用者本位というよりも、介護者本位に対応しているかもしれない。」としているが、スタッフ全員で本人の視点に立った意見を出し合い、その実現に向けた取り組みに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画の作成手法は、入居最初は、本人・家族の意向をもとに計画を作成し、利用者がホームに慣れ始めた時点で、職員の気づきやアイデアなどを加味し再度、振り返り、話し合いをした上で計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月ごとに見直しをしているが、利用者の状態の変化、評価、アセスメントの結果を踏まえ、家族や協力医・主治医とも話し合い、必要な見直しを行ったうえ計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くにある喫茶店の利用を希望したときや、日用品購入のための買い物への同行の外出支援など、限られたスタッフの中で利用者の希望を実現するための外出支援を実施するよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医又はかかりつけ医の利用は、本人・家族の意向に従って対応している。受診方法は、家族同行を基本としているが、それが難しいときは、職員の通院介助(有料)で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療連携体制に関する指針」を作成し、医療連携体制加算の認定を受けている。重度化等への対応については、家族へ説明し、看取り計画書・同意書を取り交わすとともに、協力医の協力体制(署名捺印)を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に接するときの対応の在り方として「日常の五心」を設定したり、「マナー研修」を実施している。利用者への言葉がけに配慮するとともに、個人情報に係る書類は、鍵のかかった場所に保管するなど適正な管理に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	転倒する者が多いため、「利用者の安全を第一として考えるあまり職員のペースや決まり・都合で対応していることが多い。」としているが、利用者一人ひとりに配慮しながらも、利用者本人の希望や思いに合わせた対応が必要と考える。	○	基準省令第99条では、事業者は「利用者がその自主性を保ち、意欲的に日々の生活を送ることができるようにすることを念頭に」対応するよう明記しているが、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日の利用者の気持ちを尊重し、できるだけ希望に沿う利用者本意の対応が大切と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物や旬のものを取り入れた献立を作るなど食事を楽しんでいる。食事の片付けなどは、利用者と職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、利用者の希望、リズムにそって入浴できるようにしているほか、声がけに配慮するなど、全員が楽しく入浴できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り、食器拭き、テーブル拭き、洗濯物たたみなどの役割のほか、体操やカルタとり、歌を歌うなどの気晴らし・楽しみごとを通して、利用者一人ひとりが思い思いの生活を送ることができるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	GPSを活用した散歩、車椅子を利用した外出、買い物のための外出支援など、一人ひとりの思いや希望に応じた支援に努めている。	○	地域環境も優れており気軽に外出ができるような支援体制、取り組みに期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	来訪者等の出入り確認を含めて、センサーは設置しているが、鍵をかけないことを基本としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年までの通報訓練に変えて、今年は火災の避難訓練をはじめ実施しているが、地域・住民等の協力体制のあり方については、これからの課題としている。	○	災害時の地域の協力支援のあり方について、運営推進会議等で協議・意見交換されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量については、毎日、観察とチェックをしている。また利用者の状態に応じて、量やトロミなどにこまめに配慮している。栄養バランスは、同法人所属の栄養士のアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は不快な音は無く、清潔が保たれ、共有空間には、観葉植物などを配置されているほか、食堂には四季折々の飾り付けなどもなされるなど、ゆったり過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、座机、好きな写真、人形などを持参して、ゆったりした居室に、思い思いに配置して、快適に住まいをしている。		